

■永忠 入唐留学僧。在唐29年、高齢で帰国し、桓武天皇の勅で梵釈寺開山となって活動した。

えいちゅう

大仏造立の詔 743= 生。京兆の人(高官)で俗姓は秋篠氏。永忠は「ようちゅう」ともいう。

大仏開眼・・・ 752= 9歳 :

聖武天皇没・ 756=13歳 :

・・・・・・ 761=18歳 :

宇佐八幡神託 769=26歳 :

称徳天皇没・ 770=27歳 :

「元亨釈書」によれば、宝亀の初めに入唐留学し、延暦の末に遣唐使に随って帰国したという。この伝えによると、

第16回遣唐使 777=34歳 : *入唐した第14次遣唐使に留学僧として加わり、

・・・・・・ 779=36歳 :

桓武天皇即位 781=38歳 :

蝦夷征伐始・ 788=45歳 :

平安京遷都・ 794=51歳 :

・・・・・・ 796=53歳 : *入唐留学中、来日した渤海国の遣使に書状を託したことがあり、同年、渤海国使の呂定琳らの帰国に際し、定琳に付して「太政官の書」を賜わり、また沙金少3百両が永忠らに送られた。

田村麻呂将軍 797=54歳 :

遣新羅使停止 799=56歳 : 遣渤海国使内蔵宿禰賀茂らに託して永忠らに書状が送られている。

大事業中止・ 805=62歳 : *帰国した第16次遣唐使とともに帰り、在唐は29年に及んだ。「僧空海請来目録」によると、空海はこの年、長安の西明寺に配住となった時、同寺の永忠和尚の故院に留住したという。

桓武天皇没・ 806=63歳 : 「僧綱等上表文」に「大唐留学大法師位永忠」の署名がみえる。最澄が度3人を賜わったのと同時に永忠は度2人を賜わっている。時に大法師。同年、律師となり、公私の齋会の飲食などについて奏言した。この間、桓武天皇は勅して永忠に梵釈寺を主らせたという。

伊予親王の変 807=64歳 : 「玄蕃寮牒案」末尾の「大同年中比住侶」のなかに「律師永忠」の名があげられている。

葉子の変・・・ 810=67歳 : 少僧都に任ぜられ、

・・・・・・ 811=68歳 : 年分得度者仁風の師主であったことが「天台法華宗年分得度学生名帳」によって知られる。

・・・・・・ 813=70歳 : 老齢のため少僧都の任を隠退することを請願したが許されなかった。この時の永忠の辞表を空海が代筆し、その文は翌日発せられた嵯峨天皇の勅答の文とともに空海の「性靈集」巻9に載っている。

・・・・・・ 815=72歳 : *嵯峨天皇が近江国滋賀韓崎に行幸の途次、崇福寺に立ち寄った時、門外で奉迎し、また梵釈寺に輿を停めた際、茶を煎じて献じ、御被を賜わったという。時に大僧都。

・・・・・・ 816=73歳 : 没した。

直後の作とみられる嵯峨の御製「菅清公が忠法師を傷むに和す」の1首が「文華秀麗集」にある。